

## ウィンドサーフィンの世界選手権で準優勝

まついはる  
**松井晴さん**



### — PROFILE —

まつい はる(下岬区・21歳)  
立命館大学4年生。環境都市工学科で資源循環などについて学んでいる。  
祖父の松井登さんが捌く金目鯛の刺身を楽しみに帰省する。

「世界でも戦えるということを示せた」

そう強く語るのは、4月にトルコで開催された「ウィンドサーフィン世界選手権テクノクラス」で準優勝を果たした松井晴さん(下岬区)だ。

テクノクラスとは、同じ規格の道具を使ってゴールまでの時間を競うレース種目である。大会には世界各国から約300人が出場し、5日間で全9レース実施された。

### 御前崎の海が育んだ向上心

晴さんが競技を始めたのは、小学校1年生。「御前崎ウィンドサーフィングクラブ」のチラシをきっかけに、友人と一緒に参加したことが始まりだった。風が強く、波が立つ御前崎は「ウィンドサーフィンの聖地」と称され、移住者も後を絶たない。フィールドにも指導者にも恵まれた晴さんは、ウィンドサーフィンの魅力に引き込まれた。大学からは、テクノクラスを専攻。晴さんは「波の崩れる向きや風力を読んで最短コースを考えることがおもしろいんです」と競技の奥深さを語る。

一方、競技を続ける中で苦

しい経験もあった。昨年のナショナルチーム選考会では、あと一歩のところまで敗れ、競技をやめようと思ったこともあったという。それでも「負けた時に後悔はしたくない。練習した分だけ結果はついてくる」と自らを奮い立たせた。

### 挫折を乗り越え、世界へ

こうして積み重ねてきた経験と努力が世界大会で実を結ぶこととなる。

大会初日は、強風のコンディション。強風を得意とするヨーロッパ勢が上位を占めたが、晴さんを含む日本人選手が上位に食らいつく。大会3日目に日本人選手が得意とする弱風になると一気に順位を上げ、世界の強豪を相手に日本人選手が表彰台を独占。晴さんは、準優勝を勝ち取ることができた。「準優勝できてうれしい。11月に沖縄県で開かれる大学生活最後の大会では優勝したい」と意気込みを語る。

大学で環境都市工学を学ぶ晴さんは、「御前崎の海に関わる仕事がしたい」と夢を描く。地元・御前崎の海で培ってきた技術と経験を胸に、彼はさらなる高みへ歩みを進める。